

同窓会秋のイベント歌舞伎鑑賞に参加して (11月21日)

歌舞伎座さよなら公演 (あと161日)

仮名手本忠臣蔵 昼の部 11時～16時

2009年11月24日投稿

神奈川同窓会会員：坂本春江

歌舞伎座は明治22年(1889)11月21日に第一歩を歩みだし以来100年以上の永きに渡って上演をし続けている。途中2度による焼失で建て替えられ、昭和26年(1951)1月に現在の歌舞伎座が復興し今に至っている。そして平成22年(2010)4月末で今の歌舞伎座での公演は終わりとなる。



参加の皆様

仮名手本忠臣蔵は誰もが知っている江戸時代元禄に起きた赤穂浪士の討ち入り事件を扱った芝居である。これは討ち入りから47年後の1748年に人形浄瑠璃(文楽)として初演され、同じ年に歌舞伎にもなった。徳川幕府は同時代の武家社会の事件を劇化するのを禁じていたので、芝居の作者は時代や人物を実際とは変えてカモフラージュする必要があったという。この演じ物は足利時代とし舞台は鎌倉に設定して鶴岡八幡宮の名も出てくるし、浅野内匠頭こと塩冶半官の屋敷が扇ヶ谷である。この日の配役が勘三郎、富十郎、幸四郎等々立派であった。昼の部一番の見せどころ第三幕(四段目)切腹の場、今までに映画やTVで見ている場面であるが歌舞伎ならではの臨場感にホール全体が息を呑む思いで見入っていた感動の場面であった。第四幕の踊りが歌舞伎の楽しみの1つでもある。歌舞伎は本当に美しく、絵物語を見ているようである。

さて、この度はイヤホンガイドを利用した。歌舞伎のしきたりや習慣も教えてくれる。その中で、2つ程興味があった。1つは“東西!とうざい!”と物のはじめに大声を上げる、これは“お静かに!おしずかに!”ということだそうだ。2つ目は役者を紹介する前に“えへん!えっへん!”とこれも又大声で言い有名役者の前につける、特に大役者ほど大げさに言うとか。“今日はこのような立派な役者が出るのだぞー!”と。

お芝居の後、皆でサッポロライオンまで歩きそこで咽喉を潤しながら大いにおしゃべりをして楽しい1日を過ごすことが出来ました。チケット購入にご尽力くださり、お気使いを下さった幹事さん誠に有難うございました。同窓会のイベントに参加していろいろな方と一緒に楽しめる時間が持てたことの素晴らしさを感じました。